

デジタル総合政策室 ハンドブック

令和7年3月 総務・戦略グループ オンボーディング担当

ようこそ、デジタル総合政策室へ

みなさん、はじめまして！**デジタル総合政策室**です。

デジタル総合政策室は、裁判所のデジタル化を更に進展させるために、令和6年4月に、情報政策課とデジタル推進室が一体化してできた新しい部署です。

(主な業務内容は[こちら](#))

「デジタル総合政策室って何をする部署なの？」

「急にデジタル化と言われても…」

このハンドブックは、そのような不安を少しでも和らげ、転入されるみなさんが安心して仕事をスタートすることができるよう、デジタル総合政策室の役割や態勢、働き方のポイントを紹介するものです。

「より良い司法サービス」と「裁判所の業務の合理化」の実現をデジタルの視点から支えていくことを目標に、みなさんと一緒に「楽しく！」仕事ができる日を心待ちにしています。



仕事を進めるうえで大切にしたい価値

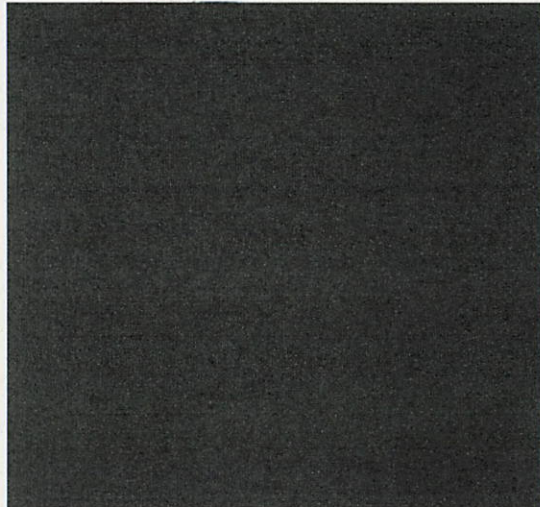
「私たちの仕事ってどんな仕事？」

「仕事をするうえで大切にしたいマインドとは？」

私たち、デジタル総合政策室メンバーが日頃から意識しているあれこれについて、参事官の草野さんと塚田さんからお話ししていただきました！

簡単に言うと…💡

- 我々みんなで、ひいては事務総局全体・裁判所全体で、一体となって、「あるべき裁判所」を目指そう。
- みんなで、ワイワイ言いながら、楽しく仕事をしよう。
- 自分たちで、仕事を作って、進めていこう。



草野参事官

塚田参事官

「あるべき裁判所」に目を向けよう！

皆さんには、これから、デジタル化やシステムに関する仕事をさせていただきます。しかし、我々の仕事は、デジタル化担当、システム担当というには、とどまりません。

デジタル化・システムは、裁判所の業務を合理化・効率化し、それによって、裁判所のリソースを有効に活用して、組織としてのパフォーマンスを最大化していくことが目的です。

私としては、この目的を実現するため、事務総局全体・裁判所全体の視点から、「あるべき裁判所」を目指して、仕事をしたいと考えています。

2万6000人の職員が、もっと余裕をもって、もっと良い仕事をできるように、それによって裁判所がより良い司法サービスを提供することができるように、との視点をもって、日々の業務に取り組みましょう。

(草野さん)



自分たちで、仕事を作って、進めていこう！

少し大袈裟でしたが、まずは、「各地の裁判所は何に苦労しているのだろうか？」「何をしたら裁判所のためになるだろうか？」「他局課はそのために何をやっているのか？」「自分にもできることはないだろうか？」と、考えてみてください。そして、小さなことから、少しずつ始めてみていただけたら、と思います。

もちろん、普段の業務では、やらざるを得ない仕事も多いと思います。でも、それが裁判所に本当に必要なら「やるべき案件」であるはず。もし「やらされ感」が出てきたら、遠慮なくその気持ちを共有して、仕事のやり方・内容をみんなで振り返ってみましょう。すべてに答えられないとしても、何か工夫ができないか考えたいと思います。

格好付けたことを言いましたが、現実はその簡単にはいきません。。。笑それでも、みんなでワイワイ（愚痴も含め）言いながら、笑顔で楽しく仕事をしたいと思っています（これが一番大切！）。これから、よろしくお願いします。

（草野さん）



「所管」「担当」にとらわれない仕事をしよう！

「所管」や「担当」ってよく聞く言葉だと思います。それぞれの部署や職員が、与えられた業務に責任をもって処理していくという点で、組織には大きなメリットがありますし、きっと皆さんも「担当」が明確だとちょっぴり安心できますよね。

でも、この世の中、必ずしも所管や担当が明確でない仕事も多いですし、組織としてのパフォーマンスを最大化していくためには、私たち一人一人が裁判所全体の視点を持って仕事をしていくことが求められています。だから、裁判所として誰かがやるべき仕事なのであれば、「所管」や「担当」なんて気にせず、上司や部下も関係なく、どんどん考えたことを口に出してみましょう。皆さんが裁判所の最前線で経験してきたこと、感じてきたこと、疑問に思っていたことが、裁判所を動かしていきます。

自分のアイデアが組織を動かす、これほどやりがいがあって楽しい仕事ってないと思いませんか。でも、「言い出した人がやらされる」ことはないから安心してください。言い出した人ではなく、やるべき人がやるように、幹部がきちんと考えます。だから、ぜひ、積極的に思いを口に出してみましょう。

(塚田さん)



ある程度考えたら、動いてみよう！

自分たちで仕事を作る、といっても実際は難しいですね。皆さんの前には舗装された道はないかもしれませんし、信頼できる標識もないかもしれません。進むべき方向が分からず、いろいろ考えこんでその場で立ち止まってしまうかもしれない。

でも、そこで勇気をもって一步を踏み出してみましょう。**ある程度考えたら、まずやってみる**、の精神です。それでうまくいかなかったとしても、決して恥じることはありません。うまく行かなかったことそれ自体が大きな成果ですし、その経験はきっと次につながるはず。私は一步を踏み出したその勇気をたたえたいと思います。

そして、**うまく行かなかった原因を考えてみましょう**。もし相手が動いてくれないことに原因があったなら、その相手と対話をし、動かしていくアプローチを考えましょう。本当に必要なら審議官まで上げてチャレンジすることだって考えられます。皆さんは**決して一人で仕事をするわけではありません**。チームで、組織で仕事をしているのですから、何も臆することはありません。楽しく、前向きに、チャレンジしていきましょう。

(塚田さん)



これだけは知っておきたい！8つのこと

「デジタル総合政策室ってどんなところ？」

「どんな人たちとどんな風に仕事を進めていくのだろうか？」

デジタル総合政策室で働く上で、知っているのと役立ちそうなことをまとめてみました！

1. デジタル総合政策室の位置づけ
2. 各グループの役割
3. チーム制
4. プロジェクトで仕事を進めるポイント
5. 事務総局やデジタル総合政策室特有の役職
6. 上司との関係
7. 専門人材との協働
8. 外部業者との付き合い方



1. デジタル総合政策室の位置づけ



榎本デジタル審議官

令和7年1月に2代目のデジタル審議官になった榎本です。この資料の冒頭にあるように「より良い司法サービス」と「裁判所の業務の合理化」の実現をデジタルの視点から支えていくため、事務総局の中でのデジ室の位置づけは、以下のようなイメージで考えています（前任者のコメントを引用しますね）・・・が、それはともかく（笑）、明るく楽しく、失敗をおそれず、健康第一で仕事しましょう！

【以下、清藤・前デジタル審議官より】

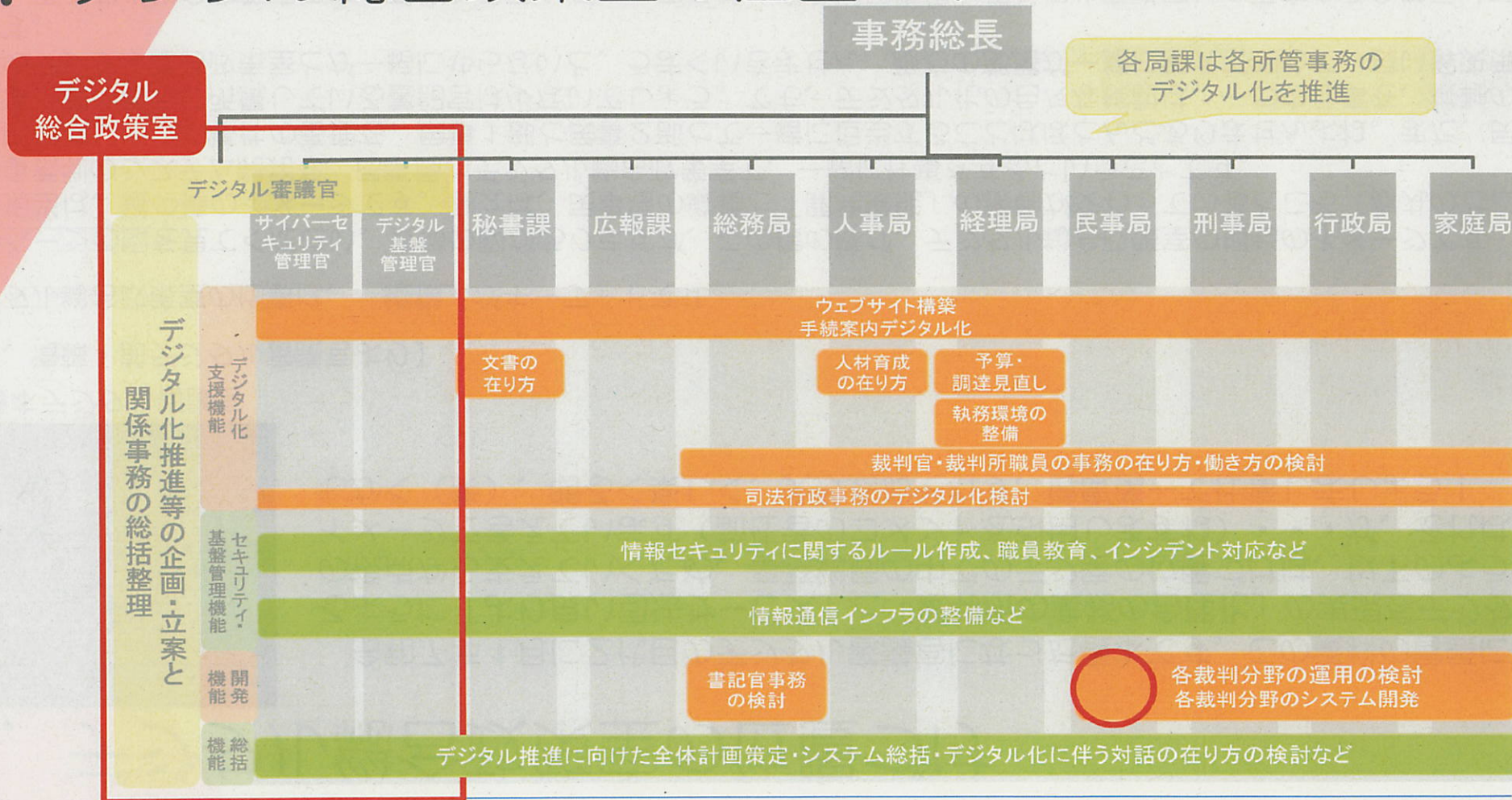
デジタル総合政策室の仕事は、「縦横」がキーワードです。

次のページの図を見てください。縦横の図がありますが、この横の棒が、デジタル総合政策室の担当のイメージです。他の局課の担当は、縦の棒のイメージです。例えば、民事局の縦軸と「開発機能」の横軸が交わっているところ（赤丸のところ）は、民事裁判のシステム開発を、民事局とデジタル総合政策室で、一緒に仕事をするということです。

裁判部では、一つの事件の審理を、民事1部と民事2部とで一緒に担当することはほとんどありませんよね。また、民事1部と民事2部の両方に所属している書記官は少ないでしょう。でも、デジタル化の色々な検討は、一つの仕事を、縦軸の部署と横軸のデジタル総合政策室とが一緒にやらないと、うまくいきません。両方の部署が一緒に考えて初めて、良い解決策が出てきます。

また、デジタル総合政策室の中の裁判システムグループには、例えば民事局とデジタル審議官付の両方の発令を受けている方がいます。その方は、民事局のメンバーでもあるし、同時にデジタル総合政策室のメンバーでもあるのです。（このように、縦軸と横軸の2つの部署のメンバーになる組織は、マトリクス組織とされています。）

1. デジタル総合政策室の位置づけ



2. 各グループの役割

総務・戦略グループ

- 裁判所のデジタル化施策全体の管理
- デジタル予算や調達の最適化に向けた企画・調整
- 裁判統計や裁判所のデータ戦略の企画・立案
- 事務改善に関する事務等

セキュリティ・基盤グループ

- サイバーセキュリティの確保に関する各種施策や教育の企画・実施
- インシデント対応
- データセンター、職員端末、ネットワーク及びM365の運用等

裁判システムグループ

- 既存の裁判事務処理システムの運用
- 民事系及び刑事系の新規システム開発等

3. チーム制

これまで裁判所の司法行政部門では、基本的に係制が採られてきたところですが、デジタル総合政策室では、**チーム制**を採用しています。

業務の内容や人的リソース等を総合考慮した上で、様々なチームが編成され、チーム単位で業務を遂行していくこととなります。よって、係制にみられるような年間を通じて基本的に同じメンバーで同じ仕事…ではなく、様々なメンバーで様々な仕事を行っていただくことになるため、多様な経験を積むことができ、**多くのメンバーと切磋琢磨する機会**に恵まれます。

なお、1人の職員が複数のチームに所属することは当然想定されていますが、月の途中でも他のチームに編成替えになったり、人員が追加で割り当てられることもあります。

当初は、業務内容の変化に戸惑うこともあるかも知れませんが、チームには必ず管理職が割り当てられ、業務内容の説明がありますし、業務に関する相談を随時受けられる態勢をとりますので、ご安心ください。

また、ほとんどのチームには、チームリーダー（専門職）が割り当てられており、チームにおける中心的な役割を担うことを期待されています。チームリーダーの方々は是非チームを率いる気概で取り組み、メンバーの方々と一緒にデジタル総合政策室を盛り上げていきましょう！

日吉審査官

4. プロジェクトで仕事を進めるポイント

プロジェクトは新しいモノ
を作り上げる創造的な取組
みです。自分なりに工夫し
ながら楽しんでください！

○ プロジェクトは、「特定の目的を達成するために、期限内に独自の成果物を完成するための業務」であることに特徴があります。

☞ 期限内に、質の高い成果物を完成させることが最も重要です

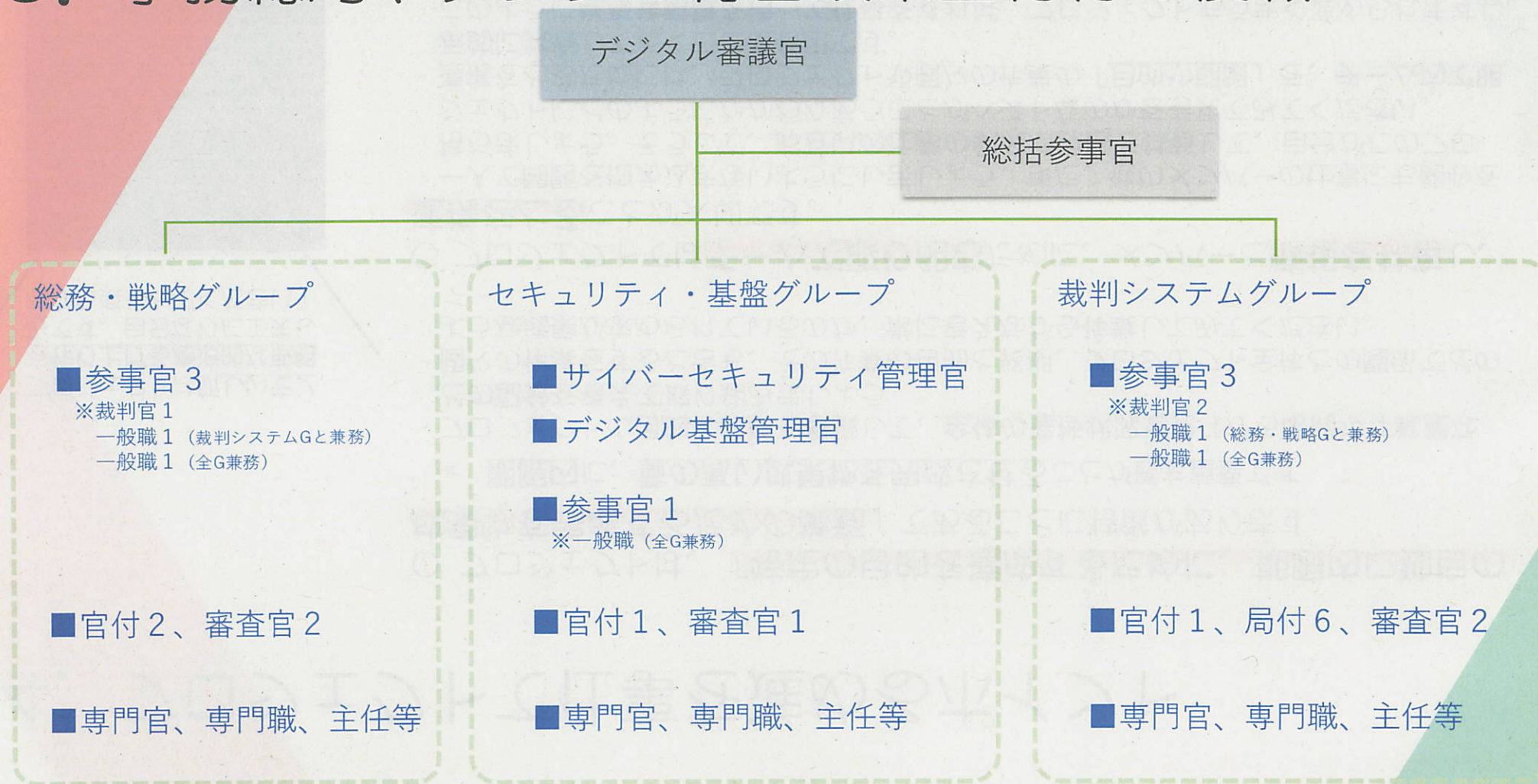
- プロジェクトの目的と終期を意識して、全体の進捗状況を見ながら時間や作業量などの配分を考えて取り組みましょう
- 個々の作業をするときも、その作業の目的と終期、プロジェクト全体との関係でどのような成果が求められているのか、常に考えながら作業してみてください。

○ プロジェクトではチームで取り組むために、メンバーと情報を共有し、連携をとることが大切です。

- 一人で問題を抱え込まないようにしましょう。また、他のメンバーの仕事にも関心を持ちましょう。そうして、お互いの仕事の状況や課題を共有して、自分がこのプロジェクトにどのようにかかわりあうことがベストなのかを考えてみてください。
- 連携をとるためには、プロジェクトや個々の作業の「目的や期限」を、チーム内で明示的に共有しておくことも有効です。
- このように当事者意識を持って仕事をすれば、プロジェクトもうまく進められますし、皆で楽しく仕事をすることもできると思います！

山田局付

5. 事務総局やデジタル総合政策室特有の役職



5. 事務総局やデジタル総合政策室特有の役職

デジタル審議官

- デジタル総合政策室の責任者
- デジタル化の推進、情報セキュリティの確保、情報システムの整備及び管理並びに統計情報に関する重要な事項の企画及び立案に参画し、関係事務を総括整理する。

参事官（裁判官・一般職）

- 各グループのリーダー的存在
 - デジタル審議官の職務のうち重要な事項の企画及び立案に参画する。
- ※「総括参事官」＝全グループを総括する参事官

※両管理官は兼務

サイバーセキュリティ管理官

- 情報セキュリティの確保に関する政策の企画及び立案並びに調整に関する事務をつかさどる。

デジタル基盤管理官

次の事務をつかさどる。

- 情報システムの利用に必要な基盤等の整備及び管理に関する政策の企画及び立案並びにこれらに必要な調整に関する事項
- 統計情報に関する事項

5. 事務総局やデジタル総合政策室特有の役職

審査官

- ・専門官の上司的役割のポスト
- ・業務マネジメントと人材マネジメントの両面からデジタル審議官をサポート。

専門官

- ・専門職や主任事務官等の直属上司に当たるポスト（課長補佐、主任書記官のようなイメージ）
- ・各プロジェクトをリードする。

官付・局付

- ・各チーム・プロジェクトの司令塔的存在の裁判官
- ・他局課との間、各チーム・プロジェクト間の調整・橋渡しの役割を担う。



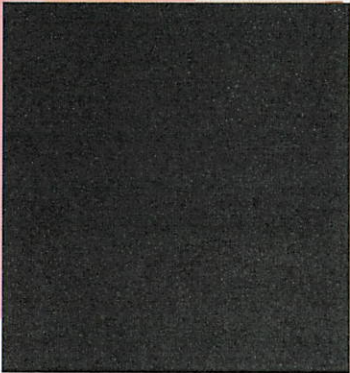
三吉審査官
（庶務主任）

「主任」と付いていますが、主任書記官ではありません。高裁、地裁、家裁、簡裁では聞かないですね。最高裁の各部署で総務や人事的な事務をやっている人のことで、ざっくりまとめると、職場環境を整えるのが私の仕事です。

皆さんが全力で職務に邁進できるようサポートしますので、よろしくお願いします。

6. 上司との関係

- ▶ 複数のチームに所属する場合、それぞれのチームの管理職が、仕事の上での上司・相談相手になります




慣れない仕事や、様々な上司とチームを組んで働くことに、戸惑うことがあるかもしれません。でも大丈夫です！皆さんをフォローできるよう、管理職同士で皆さんの業務の状況をこまめに共有しています。

仕事の内容や進め方など、困ったときには是非チームの管理職に相談してください。
様々な管理職と共に働く経験は、皆さんのキャリア形成にも役立つことと思います。

塚田専門官

- ▶ ちょっとしたことやプライベートのことなど、何でも相談できる固定の担当上司もいます

実務的なこと以外にも、ちょっとしたことを上司に相談したいことってありますよね。複数のチームに所属していると、案件ごとに上司が変わることがありますが、仕事のことに限らずなんでも気軽に相談できる固定の上司もいます。キャリア、ワーク・ライフ・バランス、プライベートなことなど、何でも遠慮なく相談してください。みなさんの成長の支援や精神的なサポートをします！



柏原専門官

7. 専門人材との協働

「専門人材」＝デジタルの知見を有する、民間企業出身の常勤・非常勤職員のこと。

こんなことを意識して、一緒に仕事をしましょう👉

①どんどん質問 ②きちんと説明 ③しっかり翻訳

- ▶ 裁判所職員は、専門的・技術的な話を知らなくて当然。恥ずかしがらずに質問して、学びましょう。
- ▶ 専門人材は、裁判所の業務を知らなくて当然。的確なアドバイスをいただくために、しっかり説明しましょう。
- ▶ 専門人材のアドバイスをそのまま他局課へ伝えるのではなく、組織内の言語に翻訳して伝えましょう。

システム事業者からの説明を、専門用語が多く「ちょっと何を言っているのかわからない」と思われたり、出てくる資料や見積もりの内容について「何この暗号文、デジハラ？」と思うことが必ず出てくると思います。

現在、8名（4月からは10名の予定）勤務している専門人材は、利用者・事業者それぞれの立場で、経験を積み重ねながら各々の得意分野を磨き、システム導入プロジェクト等で活躍してきた人たちです。

職員のみなさんと同じ視点に立ちつつ、自分のスキル・経験を活かして、裁判所として最も最適なシステムを導入し、裁判所現場を大いに効率化するために日々勤務しております。専門人材個々の立ち位置ではもちろん、専門人材間の情報連携によりどのような相談でも迅速に対応できるようにしておりますので、どのような些細なことでもお気軽にご相談下さい。

松村専門官（専門人材）

8. 外部業者との付き合い方

発注者（裁判所） と 受注者（外部業者）は ワンチーム でプロジェクトに当たる

そのためには…

One for All All for One
力を合わせて頑張りま
しょう (>v<) /

密なコミュニケーションが大事！

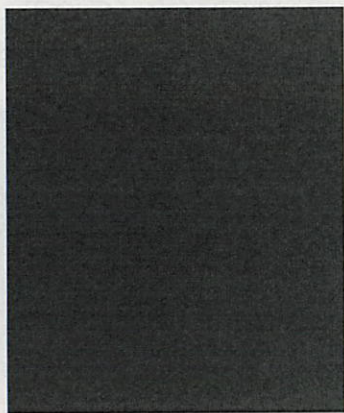
- 正確かつ確実に相手に伝える。（図式化した書面で認識合わせ、専門用語はNG）
 - 伝わらなかったらそれは話者の責任。
- 分からないことは必ず確認する。（曖昧にしない、合意内容は形に残す。）
 - 曖昧にしておくと必ずあとで揉める。👉「現物」に当たる、残す。

役割分担を意識！

- 業務は裁判所、システムは外部業者（「顧客だから上」「外部業者の提案は絶対に正しい」の考え方はNG）
 - 相互にプロ意識を持って役割を果たす。👉「実務」に役立つものを作る。
- 発注者は単なる顧客ではなくビジネスパートナー
 - リスペクトしつつも、緊張関係を保つ。

TreeeSチームのみなさん
（左から）永井さん、都倉さん、
渋谷さん、中村さん、市野さん

R6 転入者からのメッセージ



石川純さん
裁判システムG チームリーダー
刑事・少年システム開発

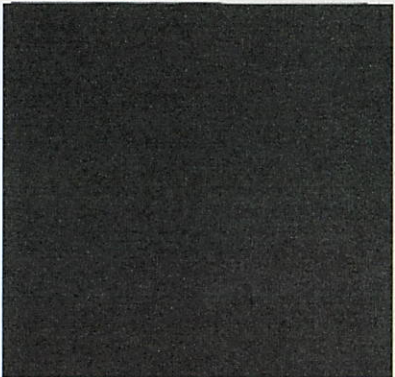
「チームリーダーとか今まで見たことないし、結局何するのかわかんないし、できるかなあ…」って、思いますよね。私もそうでした。今、私が実際にやっていることを思い浮かべると、チームメンバーと同じような仕事もやりつつ、50cm（体感）くらい上からみんなの様子を見て、向いてる方向は揃ってるかなーとか、変なことは起きてないかなーとかいうことを考えて、自分で何かしたり、上司と相談して何かしたりする人です。…うん、全然わかりませんね。

最初は役割も漠然としか分からないし、当然うまくできないですが、それでいいんです！

みんなと同じ仕事をしながら、周りを見たり考えたりしているうちに、自分がやった方がいいこととか、その方法が分かるようになって、それができるようになってきます。

なので、「心配いらないよ！」ということだけは自信を持って言えます。とりあえずやってみましょ〜。

R6 転入者からのメッセージ



初の事務局、初の最高裁判所、しかも新設立部署！デジタル？システム？予算？と着任まで何も分からず不安しかありませんでした。しかし、経験豊富な先輩や専門人材のフォローもあり、分からない時はすぐに聞ける、気になった点はすぐ確認できる環境もあって不安はすぐにはなくなりました。デジ室の仕事は裁判所全体の未来をみて、将来を考えていくとても面白い仕事です。

流動的でスピード感ある仕事に初めは戸惑うこともあるとは思いますが、チーム全体で助け合って仕事をしているので大丈夫です。一緒に楽しみましょう。


石井洸さん

総務・戦略G 主任

デジタル予算・調達、統計等

事務局経験もない、パソコンにも詳しくない、情報セキュリティなんて何をどうすれば・・・と不安に感じながら4月を迎えましたが、無事に1年が経ちました。法律用語とはまた違う専門用語が多い職場で戸惑うこともあるかもしれませんが、いきなりプロフェッショナルになる必要はありません。困っていたら相談に乗り助けてくれる周りの方々や、専門知識で助けてくれる専門人材の方々がいます。もちろんこれまでの経験が生きる場面もあります。

裁判所のデジタル化を担うチームの一員として一緒に頑張りましょう！



宮田春香さん

セキュリティ・基盤G 主任

情報セキュリティ関係



みなさんのお越しをお待ちしています！